

北陸新幹線金沢開業に向けたアクションプラン「STEP 21」  
 中間とりまとめに関するパブリックコメントの結果について

- 1 募集期間 平成21年1月21日(水)～2月16日(月)
- 2 寄せられた意見 111件
- 3 意見の概要と考え方について

(1)全般に対する意見

NO	意見内容	左記に対する考え方
1	<p>・プランの内容、書き方を見ると、写真を入れるなどわかりやすくしようとする努力はうかがえるが、専門用語や横文字が散見され、関係者を除き中味は理解できないと思う。関係者以外の人(一般の人)に理解してもらうには、わかりやすくする工夫が必要である。</p>	<p>・プランの推進にあたっては、幅広い分野の方々の参加・協力が必要であることから、多くの方々に内容をご理解いただけるよう、専門用語の解説等の充実に留意し、このプランを取りまとめました。平成21年度はわかりやすいプランの普及版を作成し、全県的な気運の醸成を図っていきたいと考えております。</p>
2	<p>・プランの法的位置づけ、パブリックマネジメントという視点から言えば検証方策が不明確である。プランの実効性、責任主体が担保されておらず効果的なインプット、アウトカムが期待できない。</p>	<p>・このプランは、官民一体となった取組みの促進をねらいとして県が策定するものであり、その推進にあたっては、専門の部署を設けるととともに、具体的な実施計画を定め、その進捗管理を図ることとしております。</p>
3	<p>・あらゆるプラン、施策に言えることであるが、期待するアウトプット、アウトカムを得るためには、予算、人材などリソースの投入が必要である。財政状況の厳しい折、法定外(目的)税の導入を視野に入れインフラ整備(特に交通インフラ)を行ってはどうか。</p>	<p>・法定外税の導入については、その税を必要とする財政需要や税源が存在し、また、税を手段とする以外に適切な方法がないこと等が必要とされているが、本県では、既に法定外(普通)税として、核燃料税を導入し、交通インフラ等の整備を行っており、新たな法定外税の導入は難しいと考えています。          なお、歳入確保のため、税負担の公平の観点から税収確保の取組みを強化するとともに、広告収入をはじめとした税外収入についても財源確保の観点から積極的に取り組んでおります。</p>
4	<p>・プランの推進にあたっては、ふるさと納税制度を最大限に活用することも考慮に入れるべきである。</p>	<p>・ふるさと納税制度によりお寄せいただいた寄附については、金沢城の復元整備など「ふるさと石川」の魅力アップにつながる施策に活用いたしております。本プランでも地域の魅力アップに向けた様々な取組みを展開していくこととしており、同制度も活用しその実現を図っていきたいと考えております。引き</p>

	続き皆様のご支援・ご協力をお願いします。
--	----------------------

(2)個別施策に対する意見

[ 基本戦略1 観光誘客拡大 ]

NO	意見内容	左記に対する考え方
5	・観光客の受け入れ体制の第一歩として、観光案内標識の整備から始める。	・実行に移せるものは直ちに実行するというスタンスでプランを推進していきたいと考えております。
6	・東京圏から金沢が2時間半ということは京都地域と同時間であり、従来以上に京都周辺との観光での競争が予想される。金沢と京都の観光要素は共通するケースが多く、現状においては比較優位を見出すことは困難である。他の同時間の地域を含めた上で金沢地域の比較優位性を検討することが戦略立案の基礎である。	・本県には、京都の「公家文化」とは異なる「加賀百万石の武家文化」の落ち着きと優雅さ中から育まれた加賀象嵌や加賀蒔絵、金箔などの「伝統工芸」や「能楽や茶道」のほか、食、温泉、豊かな自然など幅広い地域資源を有しております。これらにさらに磨きをかけるとともに、観光客のニーズや女性、団塊世代など性別、年代別の嗜好を踏まえ、ターゲット層に対応したコンテンツの工夫など戦略的な情報発信に取り組むこととしております。
7 ~ 14	<p>・新幹線が開通した記念にターゲットを絞った戦略的な情報発信と全国キャンペーンの展開について、具体的な取組みとして次を提案する。</p> <p>大学コンソーシアム石川及び国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットによる観光と環境に関する国際会議を金沢へ誘致 金沢のアートとれきしのまちゲットツアーを実施し、全国にPRする。 加賀・能登・金沢うまいもの食べ歩きツアー イシカワさん、カナザワさん、マエダさんなど同姓ばかりの人たちによる新幹線での金沢の旅 元石川県民（石川県人会）の加賀百万石へお帰りの旅 新幹線開業記念として「金沢城まつり」と「フードピア」を同時開催してPR スポーツ全国大会として高校のインターハイやJ1サッカー大会の金沢への誘致 新幹線の開通日を「百万石祭り」や「能登</p>	<p>、 について 国際会議、スポーツイベント等は波及効果も大きいことから、その誘致に積極的に取り組むこととしております。</p> <p>~ について 様々な周遊コースの提案は重要であると考えており、ご提案は、今後具体的な検討を進めるにあたっての参考とさせていただきます。</p> <p>について 今後具体的な検討を進めるにあたっての参考とさせていただきます。</p>

	<p>の火祭り」加賀温泉地区のまつり、さらに、「九谷焼物祭り」を同時開催する。そして、その会場間をJR金沢駅とシャトルバス等で結び運行する。</p>	
15	<p>・首都圏の関係者と連携したPRの推進、映画やテレビ番組のロケの誘致、沿線地域と連携した情報発信の取組みが重要である。</p>	<p>・ご指摘のような取組みは重要であると考えており、その推進を図っていくこととしております。</p>
16	<p>・ボランティアによる「石川県民おもてなし行動隊」を設立する。加賀温泉地区、金沢地区、能登・和倉地区に組織して旅行者等のガイドとする。</p>	<p>・県内各地で観光ボランティアガイド団体が組織され、地元で活躍されております。また、一般県民を対象に「おもてなし講座」を開催し、県民挙げて観光客を温かくお迎えする運動を展開しております。今後とも観光情報の提供等によりその活動を応援していきたいと考えております。</p>
17	<p>・北陸新幹線の開業記念として、いしかわ動物園やのとじま水族館、兼六園について高齢者や子どもたちのために無料開放する。</p>	<p>・開業に合わせて魅力あるイベント等を開催していくこととしております。ご意見は、今後具体的な記念事業の検討を進めるにあたっての参考とさせていただきます。</p>
18 ～ 22	<p>・情報発信力を強化するため次を提案する。 情報の発信基地の誘致を計画してほしい。 (テレコムタワーの建設など) 国際会議場の誘致と整備 世界に「イシカワ」「カナザワ」の名前が広がるよう発信する。また、模倣等がされないよう監視する組織を確立する。 金沢市のまち全体を主会場にした「金沢のみらいとれきしのまちゲッツツアー」を開催し、広くPRする。 金沢の世界友好都市の方々を「金沢市親善大使」等に委嘱し、世界にPRしてもらう。 また、年に何度か金沢に集い研修会等を開催する。</p>	<p>・石川の認知度を高めるために、国内外に向けて情報発信は重要であり、メディアやインターネット等を活用した効果的な情報発信に取り組むこととしております。 国際会議については、本県の伝統文化、食、温泉、豊かな自然等の魅力を積極的にPRするとともに、既存施設を十分活用し、誘致を進めていくこととしております。</p>
23 ～ 27	<p>・金沢港を観光の港としても位置づけ、次の整備を行うよう提案する。 港と中心市街地の一体化を目指した整備、更に人が見に来る港、魅力ある港としての機能が発揮できるような整備を推進する。 物流を競うのではなくオンリーワンとしての位置づけを行い、その整備を図る。 大型客船等の岸壁整備を行う。</p>	<p>～、について 金沢港大浜多目的国際ターミナルが平成20年11月2日から供用を開始し、港湾機能の強化が図られました。一方、賑わい機能としては、これまで大野お台場公園や無量寺地区で「親水空間」の整備を、またイベントの開催等により賑わいの拡大に努めております。</p>

	<p>車線幅を抑えた三階方式で金沢港をまたぎ能登有料道路に接続する「金沢港ブリッジ」を整備する。(1階はLRT等の公共交通システム、2階は車道、3階は人や自転車が通行する)</p> <p>人が集まる、人に魅力的な港として全体を公園化すること、大野お台場公園の充実やスーパーテクノライナー等の誘致を図る。</p>	<p>今後、戸水・無量寺を客船・フェリーふ頭とし、地域の核となる交流拠点ゾーンの中心として整備することで、金沢西部副都心と連携した「石川の海の玄関口」として、金沢港の利便性が向上するものと考えております。</p> <p>について</p> <p>金沢港の更なる振興を図るうえで、能登有料道路と金沢外環状道路海側幹線の連結によるネットワーク形成の必要性は高いと考えており、「ダブルラダー結いの道」整備構想においても位置づけをしております。</p>
--	---	---

[ 基本戦略2 魅力ある交流基盤づくり ]

NO	意見内容	左記に対する考え方
28	<p>・金沢から能登へ足を運んでもらうには、二次交通が大切。また、着いてからの公共交通（三次交通）も大切。プランには二次交通の充実を記載しているが、しっかり取り組んでほしい。</p>	<p>・回遊性を高めるため、交通事業者、観光事業者、行政等による連絡会議を設け、二次交通充実に向けた取組みを促進していくこととしております。</p>
29	<p>・北陸新幹線の金沢開業が能登にとってもビジネスチャンスにつながることを期待するが、そのためにはJR七尾線はこれまで以上に利用しやすいものにすることが大事である。地元住民の足として、また観光客を迎えるためにも七尾線の利便性を向上させてほしい。</p>	
30 ～ 31	<p>・並行在来線の活用が重要であり、そのためには魅力ある路線、LRTなど新たな手法の導入が必要である。次の取組みを提案する。</p> <p>能登線を電化し、能登空港まで延長する。北陸鉄道の浅野川線と石川線を市内で直結し、LRT化する。また、県営ダムの電力を鉄道事業に供給し、クリーンなエネルギーで運行されていることをPRする。</p>	<p>について</p> <p>現時点では能登空港が1日2往復であり需要に限られること、また、空港までの急勾配という立地条件等から多額の投資が必要であることから、空港までの延伸に係る費用対効果は期待できないと考えております。</p> <p>について</p> <p>電車とバスの乗り継ぎ利便性向上の取組みを行っており、まずは、現状での利用促進の取組みを推進していきたいと考えています。</p>

32	<p>・ローカル線と呼ばれる北陸鉄道石川線や浅野川線、JR七尾線を活性化すべきである。特に石川線は、世界遺産登録に向けた取り組みを進めている金沢、白山を結ぶ重要な交通基盤として有効に活用してほしい。また、加賀一宮駅の廃止の予定があるが、県も存続に向けた支援をしてほしい。</p>	<p>・回遊性を高めるため、交通事業者、観光事業者、行政等による連絡会議を設け、二次交通充実に向けた取り組みを促進していくこととしております。加賀一宮駅の件については、まずは北陸鉄道が地元に必要な説明を行い、地域の理解を得ることが重要であり、廃止によって地域の公共交通としての利便性が低下することのないよう、地元白山市とも十分に協議しながら対応していただきたいと申し伝えております。</p>
33 ～ 38	<p>・金沢都市圏の公共交通を活性化するには、鉄道を主軸とした交通網の充実が重要である。特に、北陸鉄道石川線と浅野川線の再生と活性化が必要であり、以下を提案する。</p> <p>両線を都市計画法の都市高速鉄道と定め、利便性を高めてほしい。</p> <p>また、現代の街並みにて適応した路線に改良してほしい。具体的には、</p> <p>必要に応じた駅の移設、新設の検討。市街地での立体連続交差事業の実施など</p> <p>公共施設、ショッピングセンター、工場などへの各最寄り駅からのアクセス道路の整備</p> <p>今後整備する公共施設について両線の最寄り駅へ設置すること</p> <p>無人駅についてミニ駅前広場を整備し、住民同士のコミュニケーションやふれあいの場としての活用</p> <p>駅舎について、町内会の集会所などコミュニティー空間として活用</p>	<p>について</p> <p>これまで、浅野川線のJR金沢駅東広場への地下乗り入れなどにより利便性の向上を図られてきました。今後とも、鉄道事業者と協力しながら、公共交通の利用促進に努めていきたい。</p> <p>について</p> <p>多額の設備投資が伴うことから、その費用対効果について慎重に検討する必要があると考えております。</p> <p>について</p> <p>公共交通の活性化には、駅へのアクセス性の向上や、駅を中心としたまちづくりの推進が重要な施策であると考えております。金沢市では、石川線西金沢駅に近接するJR西金沢駅に、新たにアクセス道路、自由通路、東西広場の整備に加え、駐車場や駐輪場を確保するなど交通結節点としての機能充実を進めることと聞いております。</p> <p>について</p> <p>これまでと同様に住民サービスの維持・向上を基本として、利便性等を考慮しながら施設の配置・整備を進めてまいりたい。</p> <p>、 について</p> <p>駅舎等の利活用による賑わいづくりについては、鉄道の利用促進の観点からも重要であると考えておりますが、その進め方については、維持管理や保安等の面からも、地元の活用の盛り上がり也不可欠であると考えています。県としてもできる限り支援</p>

		していきたいと考えております。
39	<p>・金沢の中心部へのアクセス手段として「まちなかシャトル」というワンコインバスを中心に検討しているが、現実的な施策で地元の人達が利用する分には異論がない。しかし、20～30年後を考えた場合、都心軸への軌道系導入が不可欠である。環境問題や首都圏の人達の鉄道に対する意識、北陸新幹線沿線地域の主要都市での鉄軌道による都市内交通のインフラの整備状況を見ると、金沢のインフラは脆弱であり、地域間競争の激化が予想される中、思い切った交通政策を打ち出す必要がある。</p>	<p>・交通渋滞の緩和、環境負荷の軽減、中心市街地の活性化の観点から新交通システムの導入について検討を進めてきましたが、現状では、事業採算性、導入空間、整備費用など解決すべき課題が多く残されています。</p> <p>このため、バス等の公共交通利用者が減少する中、まずはマイカーからバスへの利用転換を図ることが重要であると考え、バスレーンの実施やシティーライナーの運行などにより、バス利用の環境改善に取り組んでいるところであります。今後とも金沢市と連携し、公共交通の利用促進に努めてまいりたいと考えております。</p>
40	<p>・新幹線開業を機に自動車から歩行者や公共交通中心の交通に転換すべきであり、今後の道路政策は自動車のための道路を抑制、中止し、自転車や歩行者のための道を中心に整備してほしい。</p>	<p>・交通渋滞の緩和、環境負荷の低減、中心市街地の活性化の観点から公共交通や自転車、歩行者のための施策はより一層重要になってくるものと考えております。</p> <p>そのため、都市内の通過交通を排除する環状道路の整備や、自動車から公共交通の利用促進による歩けるまちづくりの推進に努めており、今後とも、公共交通の利用促進と道路整備との連携を図りながら、総合的な交通体系の構築に取り組んでいきたいと考えております。</p>
41 ～ 43	<p>・先に整備新幹線が開業した地域を訪問したが、次の点に留意すべきであると感じた。</p> <p>観光案内所やサインの設置にあたっては、乗降客の動きに配慮することが必要である。</p> <p>駅からバス、タクシー等への案内をわかりやすくすることが必要である。</p> <p>地元の人には意外に地元のことを知らない。</p> <p>また、観光客が気分を害するような対応もあった。おもてなしの向上が重要である。</p>	<p>、 について</p> <p>案内板等については、観光、ビジネスなど来訪者の目的を考慮し、わかりやすい表示に努めてまいります。</p> <p>について</p> <p>県民一人ひとりが温かく観光客をお迎えする「おもてなしの心」の醸成を図るため、全県的な観光イメージアップ運動の推進など「受け入れ体制の整備」を進めていくこととしております。</p>
44	<p>・地域の住民と商業者等が一体となって、回遊ルートづくりやおもてなしの向上、安心安全なまちづくり、にぎわいのあるまちづくりを進めることが重要である。</p>	<p>・新幹線の開業効果を県内全域に波及させるには、地域の方々の取組みが特に重要になってくると考えております。北陸新幹線金沢開業を見据え、業界、地域で様々な取組みが行われておりますが、県としては、</p>

		こうした取組みがさらに県内各地に広がっていくよう、幅広い分野の方々に参加・協力いただく官民連携プロジェクトを推進していくこととしております。
45	・北陸新幹線に相応しい列車名を広く一般公募していく方法がよいと思われる。	・現時点でJRが列車名をどのように決めるのかについて承知しておりませんが、県としては、北陸・石川のイメージが発信できるような列車名となるよう、関係団体等と連携してJRに働きかけていきたいと考えております。
46	・新幹線開通を記念して、能登有料道路を1カ月間無料とできないか。	・能登有料道路については、平成26年に無料化を予定しております。
47	・金沢港について、観光の港となるよう大型のカーフェリー基地を整備することが重要である。まずは韓国釜山港との定期航路の復活と拡充を目指すべきである。	・フェリー航路については、これまでも県、金沢市、(社)金沢港振興協会等が連携して船会社に寄港要請を行ってきており、今後ともしっかりと取り組んでいきたいと考えております。
48	・海側外環状線の大河端までの完成を新幹線開業までに完成させることが重要である。	・金沢市大友から浅野川左岸の大河端までの北伸区間については、平成26年に供用開始ができるよう整備を進めております。
49	・県立西部緑地公園を車両基地として北陸鉄道石川線と浅野川線を接続するよう整備工事を行うことが重要である。	・多額の設備投資が伴うことから、その費用対効果について慎重に検討する必要があると考えております。
50 ～ 54	<p>・北陸新幹線の整備建設について次を提案する。</p> <p>白山総合車両基地までの早期完成を目指す。さらに、敦賀駅までを早期に完成させ、湖西線を格上げ改良利用し、京都駅、新大阪駅に、新たに大阪駅(梅田駅)までの乗入れを、特に、考慮に入れて出来る限り早期の整備を推進する。</p> <p>新幹線建設の法的な整備の一つとして、財源確保のために、短期の年次を限ったの道路特定財源からの融資を可能になるよう国に働きかける。</p> <p>東京から金沢までの所要時間を短縮するよう整備を進める。(速度アップなどによる)</p> <p>金沢から大阪までの所要時間を短縮するよう整備を進める。(敦賀駅からの方式をミニ新幹線方式や湖西線の格上げ改良利用など</p>	<p>・北陸新幹線については、これまでも東京～大阪の沿線自治体等と連携し、金沢までの1日も早い開業や、敦賀までの早期整備、大阪までの整備方針の明確化等について、国等に要望してまいりました。</p> <p>こうした要望を受けて、政府・与党においても、昨年12月、白山総合車両基地～福井間などの整備について、21年末までに認可するための検討を進め、結論を得ることや、福井～敦賀間、敦賀以西の延伸の方針、幅広い観点からの財源確保の方策を検討すること等の合意がなされました。このことは、金沢以西への延伸について、大きな前進があったものであり、この上は、認可・着工をできるだけ早く実現していただくことが必要と考えております。</p> <p>北陸新幹線の開業に伴い、時間短縮効果</p>

	により早期に整備する) 大阪の人達の賛同を得るため、新たに大阪駅(梅田駅)までの乗入れを図る整備計画を策定する。	など、大きな開業効果が期待されるため、今後とも、金沢までの1日も早い開業と金沢以西の早期全線整備について、引き続き、沿線各県とも連携を密にしながら、最大限の努力をしていきたいと考えております。
55 ~ 58	<p>・並行在来線について次を提案する。</p> <p>金沢駅については、観光地や都心部への移動のための公共交通の利便性の向上を図る。さらに地域住民等の安心利便性を確保する。また、新幹線との連絡等に配慮する。</p> <p>J R 西金沢駅、東金沢駅、森本駅については、交通機関の結節点として都心部への移動や住民生活のためにコミュニティバス等の運行により利便性の向上、活性化を図り、副都心として整備する。特に、西金沢駅については、北陸鉄道の浅野川線と石川線の一体化を意識した整備を進めておく。</p> <p>J R 西金沢駅と金沢駅間、東金沢駅と金沢駅間に中間駅として無人駅でもよしとする駅を設置して住民の利益を図るべきである。</p> <p>北陸本線が第三セクターに移行した後も、現行で運行されている新潟方面や名古屋方面の特急を今までと同様に運行できるように J R 西日本に求めておく。</p>	<p>について</p> <p>回遊性を高めるため、交通事業者、観光事業者、行政等による連絡会議を設け、二次交通充実に向けた取組みを促進していくこととしております。また、J R 等と連携し、駅及びその周辺の利便性向上を図っていききたいと考えております。</p> <p>について</p> <p>J R 西金沢駅などでは、金沢市が自由通路や東西広場の整備に加え、駐車場や駐輪場の確保を行うなど交通結節点としての機能充実を進めていると承知しております。</p> <p>について</p> <p>新駅の設置については、多額の設備投資が伴うことから、その費用対効果についても慎重に検討する必要があると考えております。</p> <p>について</p> <p>当県においては、大阪・名古屋方面からの既存の特急列車について、例えば、和倉温泉までの乗り入れを継続していただく必要があると考えていますが、並行在来線となる区間をまたいで運行されることとなるため、J R 列車の乗り入れについて J R との協議が必要になります。ただし、並行在来線については、政府・与党において、運行の在り方等について検討が行われているため、その動向を注視することとしており、この検討結果を踏まえて、J R としっかり協議していきたいと考えております。</p>
59 ~ 62	<p>・小松空港の今後の維持のため次の提案をする。</p> <p>アジアの玄関口としての優位性を十分に生</p>	<p>・小松空港については、更なる航空ネットワークの発展(既存路線の充実、新規路線の開拓)</p>

	<p>かした国際物流拠点としての整備、アジア諸国やロシア極東地区空港への乗り入れの促進、国際定期路線の拡充を図る。</p> <p>空港施設の整備や機能の充実を図るとともに、台湾、中国、韓国、ロシア極東地区との路線を早期に確保する。</p> <p>小松空港から金沢駅中心部への公共交通機関の乗り入れや、金沢港との連携、さらに新幹線との乗継ぎについて連携し、利便性の向上を図る。</p> <p>2016年のオリンピック開催を目指す東京に対し、海外等のお客様を東京へ運ぶことに役立つことをPRすべきである。</p>	<p>空港機能、施設環境等の整備          空港アクセスの強化          貨物取扱いの利便性の向上          などに引き続き取り組んでいきたいと考えております。</p>
<p>63 ～ 66</p>	<p>・北陸新幹線と金沢港、小松空港、能登空港とを一体化連動させるため次の提案をする。</p> <p>金沢市粟崎地区で能登有料道路と接点で金沢港により近い場所で大規模の駐車場を確保する。そこへヘリコプターの発着のための基地や防災救助隊、消防防災ヘリ、ドクターヘリをも併せて配置整備する。</p> <p>ここでは、平常時において、小松空港、金沢港、和倉温泉と能登空港を結ぶ航空観光や定期的な旅客運送をも行う。また、北陸鉄道浅野川線をヘリコプター基地に乗り入れるなどしてJR金沢駅との一体化と利便性の向上を図る。さらに、この基地に小松空港、能登空港の両空港の乗車の手続きや旅客の振りかえの機能を持たせ、両空港への利便性の向上を図る。(このことにより一体化を図る)</p> <p>金沢港や小松空港、和倉温泉、能登空港との連携を密にするため、ここを結節点として指定して北陸新幹線の最寄りの各駅や北陸線の各駅を結ぶ公共交通機関、連絡シャトルバスを運行するなど利便性の向上を図る。</p> <p>将来的には、新しい交通システム、LRT等を「金沢港ブリッジ」に渡らせてヘリコプター基地に入れる。さらに、北陸鉄道浅野川線の内灘駅へと連結することで中心部</p>	<p>～ について</p> <p>新幹線と空港等の高速交通機関の連携は重要であり、関係団体、市町等と連携しながら、検討を進めてまいりたい。</p> <p>なお、ご提案については、多額の設備投資が伴うことから、その費用対効果について慎重に検討する必要があると考えております。</p>

	からの巡回性も考慮に入れて整備する。	
67 ～ 71	<p>・地域間の連携を促進するため、広域交通体系の整備・充実が必要であり、次を提案する。</p> <p>東海北陸自動車道への連絡道路として、また、中部圏等との交流、連携に寄与する道路として国道304号の改良等は急務である。</p> <p>海側外環状線の全線の早期完成を目指す。また、能登方面への連絡を密にするために、50m道路と能登有料道路との一体化接続のために、金沢港をまたぎ粟崎地域までの車線幅を抑えた多層式の橋梁「金沢港ブリッジ」を有料方式にしてでも整備する。</p> <p>金沢工業大学、金沢学院大学、金沢大学と北陸大学、さらに、金沢星稜大学などを結び教育産業交流を図るため、山側外環状線道路の南側方向、さらに、山側の方面として、野々市町から別所町を通り太陽が丘付近、角間地区から国道304号線の古屋谷町付近まで結ぶ道路を整備する。</p> <p>本県は自然が美しく海岸線が長く変化に富んでいることから、自転車専用道路として、加賀方面や能登へ向かう千里浜を通り能登半島の輪島、珠洲、内浦を巡る道路を整備する。</p> <p>能登へのアクセスが効率的に行うことができるよう、能越自動車の整備を促進する。</p>	<p>、 、 について</p> <p>陸・海・空の交流基盤相互を結び、相乗効果の発現や周遊性の向上を図るため、「ダブルラダー結いの道」整備構想を推進することとしております。</p> <p>について</p> <p>金沢外環状道路山側幹線を利用することにより対応できると考えております。</p> <p>について</p> <p>自転車道路については、これまでに能登海浜自転車道、加賀海浜自転車道、小松加賀健民自転車道等の整備を行っており、利用者の要望を踏まえ、対応していきたいと考えております。</p>
72 ～ 74	<p>・金沢西部から都心部へ電車等の路線を新たに整備するとともに、中心市街地への新交通システムの早期導入を図ることが重要であり、次を提案する。</p> <p>北陸鉄道石川線と浅野川線を県立西部緑地公園での連結と一体化を目指す。</p> <p>金沢市の中心市街地へのLRT等の新交通システムの路線導入を促進する。</p> <p>公共交通体系システムの中心をガソリン使用バスからハイブリットや電気バスへと暫時改良し移行する。</p>	<p>について</p> <p>多額の設備投資が伴うことから、その費用対効果について慎重に検討する必要があると考えております。</p> <p>について</p> <p>交通渋滞の緩和、環境負荷の低減、中心市街地の活性化といった観点から、新交通システムの導入について検討を進めてきましたが、現状では、事業採算性、導入空間、整備費用など解決すべき課題が多く残されております。</p> <p>このため、バス等の公共交通利用者が減</p>

		<p>少する中、まずはマイカーからバスへの利用転換を図ることが重要であると考え、バスレーンの実施やシティーライナーの運行などにより、バス利用の環境改善に取り組んでいるところであります。今後とも金沢市と連携を図りながら、公共交通の利用促進に努めていきたいと考えております。</p> <p>について</p> <p>低公害車の普及促進は重要であり、国の事業等を活用しながら、業界の取組みを促進していきたいと考えております。</p>
75 ～ 83	<p>・県内各都市の中心部における環境や景観の整備や安全対策を図るため次を提案する。</p> <p>各都市について、中心市街地や町の中心部は可能な限りコンパクトシティ化を目指す。</p> <p>パークアンドバスライドシステムの拡大を図る。(都市中心部の車社会からの脱出を目指す)</p> <p>金沢市や七尾市、小松市の中心市街地については、年次を追って、大型トラック等の運行道路を制限する、通り抜けや進入についても許可制など制限するようにする。</p> <p>金沢市として「脱タバコ宣言」を行う。(タバコのポイ捨て禁止、罰金の徴収制度の導入など)</p> <p>県内の各都市は歩けるまちづくりを推進する。(生活道路における歩行者通行の優先、駐輪場等の確保など)</p> <p>城下町金沢の密集地域の地震対策や火災等の安全対策に力を入れてほしい。</p> <p>金沢市等の中心市街地や県内の温泉地について、安全で安心して歩ける町、美しいまちづくりのため、無電柱化を進める。</p> <p>金沢市において、密集地区に点在している空き地をミニ公園化することや避難場所とすることにより有効活用を図る。</p> <p>美しい石川の景観づくりのため、地域に応じて特別区を指定し、無電柱化の推進と、屋外広告物の規制と誘導を強化する。</p>	<p>について</p> <p>市街地の郊外への拡大を抑制するとともに、中心市街地の低未利用地や既存施設を有効に活用した、自動車に依存しない交通負荷の少ないコンパクトなまちづくりを目指していきたいと考えております。</p> <p>について</p> <p>渋滞対策や環境負荷の低減といった観点から、パーク・アンド・バスライドシステムは、有効な施策であると考えております。金沢市においては、通勤時におけるパーク・アンド・バスライドシステム(通称：Kパーク)を実施しており、今後も更なる拡大に取り組む方針であると聞いております。</p> <p>について</p> <p>都市内の通過交通を排除する環状道路等の整備を進めていきたいと考えております。</p> <p>について</p> <p>金沢市議会において、「グットマナー実践都市宣言」が議決されたことを受け、金沢市では市民のマナー啓発活動に取り組んでいると承知しております。</p> <p>について</p> <p>公共交通機関の利用促進、歩行空間の確保により、誰もが歩いて生活できるまちづくりに取り組むことが重要であると考えております。</p> <p>について</p>

		<p>住宅等の耐震化や自主防災組織の強化など官民が一体となって災害等に強いまちづくりを進めていきたいと考えております。</p> <p>について</p> <p>歴史的・文化的地区、温泉街などの観光地や中心商店街などにおいて、無電柱化を進めるとともに、市町と連携し、沿道の建物の保全や修景、舗装や照明、緑化などの道路修景を行い、安全安心で魅力ある美しい街なみづくりに努めてまいります。</p> <p>について</p> <p>金沢市においては、密集市街地では、避難地や避難路の確保により都市防災力の向上を図るとともに、まちなかの低未利用地については、まちなかへの定住を促進する方向での活用を進めていると承知しております。</p> <p>について</p> <p>歴史的・文化的地区、温泉街などの観光地や中心商店街などにおいて、無電柱化を進めるとともに、市町と連携し沿道建物の保全や修景、舗装や照明、緑化などの道路修景を行い、安全安心で美しい魅力ある街なみづくりに努めてまいります。</p> <p>また、屋外広告物については、景観と広告物の規制エリアの一致に努め、一体的な運用に留意しております。</p>
84 ～ 87	<p>・県内の歴史文化資源・自然景観を生かした地域づくりに取り組むことが重要である。</p> <p>白山について、開発区域を制限し、国立公園に相応しい環境を保つ。</p> <p>能登半島、越前加賀国定公園の適切な開発と保全</p> <p>車が通れる海岸として全国的に有名な千里浜海岸の保全</p> <p>美しい里山や千枚田の適切な保全や七尾湾等の環境汚染の防止</p>	<p>・ご指摘のように歴史・景観を活かした地域づくりは重要であり、全県的に取り組み、それぞれの地域の魅力向上を図っていくこととしております。</p>
88 ～ 91	<p>金沢美術工芸大学について次の提案を行う。</p> <p>金沢美術工芸大学のキャンパスの移転を行う。(金沢大学工学部跡地への移転)</p>	<p>・金沢美術工芸大学については、造形芸術の諸分野を網羅し、着実な教育・研究体制を築いており、また、国際的に活躍する芸</p>

	<p>大学に少数の定員の西洋の音楽部（声楽、ピアノ、バイオリン）を設ける。また、その下に能楽等に関連した音楽のための附属専門学校等を置く。</p> <p>金沢21世紀美術館との連携を進めるとともに、大学情報交流センター及び美術専門図書館の設置等を目指す。</p> <p>金沢21世紀美術館、産業界との連携により、ファッション産業の育成と工芸産業の創造を図る。</p>	<p>術家の招へいなどによる教育研究交流といった特色ある取組み、積極的な地域貢献を行っている」と承知しております。</p>
92 ～ 94	<p>・金沢駅周辺と都心部の回遊性の向上と駅通り線街路事業整備と都心軸の再整備に向けて次を提案する。</p> <p>金沢市中心部の活性化と駅通り線再開発地域の開発のため、情報科学館や子供科学館、金沢老舗美術公園等を設ける。（移転する事業所等は再開発地域のインテリジェントビル等に入居）</p> <p>玉川図書館やこども図書館から中央小学校前を通り、武家屋敷跡地までを歩く歩道の幅を拡げ、景観に配慮し、金沢に相応しい通りにする。</p> <p>新幹線開業までに河北門の復元整備といもり堀復元を完成させる。さらに、金沢城、兼六園の周辺付近の無電柱化を急ぐ。</p>	<p>について</p> <p>金沢市において、まちなかの賑わい創出のため、再開発事業や民間が実施する優良建築物等の整備に対する支援を行うほか、オフィス・店舗の誘致等に取り組むこととしており、県としても必要に応じて、支援していきたいと考えております。</p> <p>について</p> <p>当該区間については金沢市が、まちなかで歩行者優先、安全・安心で楽しみながら回遊できる歩行環境の整備を推進することと聞いております。</p> <p>について</p> <p>平成22年春の完成を目指し、河北門の復元整備、いもり堀の水堀化に取り組んでおります。また、無電柱化については、県、金沢市とも重点的に整備する地区を定め、一層の推進を図っていくこととしております。</p>
95 ～ 102	<p>・石川県の飛躍発展のため次の施設等の整備が必要ではないか。</p> <p>金沢港にポートタワー等を建設する。</p> <p>広坂の旧石川県庁舎と跡地に円卓会議が可能な国際会議場を整備する。</p> <p>金沢等の名が入ったプロ野球チームやサッカーチーム等の強化育成を図る。また、県民に支援を要請する。</p> <p>尊経閣文庫の早期誘致を図るとともに、県立図書館の移転整備を促進する。</p>	<p>、 について</p> <p>県都金沢が環日本海の中核都市としてさらに発展していくために、都心地区の賑わいの創出や西部副都心における広域的な都市機能の集積を図っていきたいと考えております。</p> <p>について</p> <p>県庁跡地は「兼六園周辺文化の森」の一翼を担うものとして、中央公園や周辺施設と一体となって、良好な景観形成を目指す</p>

金沢香林坊付近に複合商業ビルを建設し、市の中心部にインパクトを与える。  
金沢城について慶長期の姿での復元を目指し整備を図るとともに、世界遺産を目指す。  
能登半島の里山への「とき」放鳥を目指した取組みを推進する。  
能登でまぐろの畜養が行われるが、漁業面でなく観光面で生かしていく方法を研究する。

とともに、県民の多種多様な文化の創造へ向けた機会と場を提供し、多様な文化活動による賑わいと交流を生み出すことに寄与すべく利活用を図るものとした県庁跡地等活用基本構想を、パブリックコメントも踏まえ、平成19年3月に取りまとめました。

旧県庁舎は、歴史的な外観を残しながら時代に合った利活用を図り新たな文化を育む場として、保存再生することとしており、平成22年春のオープンを目指し整備を進めております。(名称：しいのき迎賓館)

について

本県には2つのプロスポーツチームがありますが、県では、県民のみなさんに夢と感動を与え、青少年のスポーツに対する底辺拡大や地域の活性化を図るため、その活動を応援しています。県ホームページにも掲載しており、県民の皆様も、地元チームの活躍に熱い声援を送っていただきたくお願いします。

について

昨年9月にリニューアルした県立美術館に「前田育徳会尊經閣文庫分館」を設置しました。分館の展示の充実を図り、尊經閣文庫の歴史的な価値等について情報発信していくこととしております。また、県立図書館については、県内公立図書館の中核的施設としてその機能強化を進めていきたいと考えております。

について

国史跡の金沢城については、現在、現存する石川門や三十間長屋との時代の統一を図るため、江戸時代後期の姿を前提に本物志向で史実性の高い復元整備を進めております。

について

昨年未、本県がトキの分散飼育実施地に決定されました。平成22年春からの繁殖期に間に合うよう、万全の準備を進めていきたいと考えております。

について

		<p>漁業だけでなく、能登の食の魅力アップや体験観光など、新たな地域資源としての多様な活用について検討していくこととしております。</p>
--	--	---

[ 基本戦略3 産業・地域づくり ]

NO	意見内容	左記に対する考え方
103	<p>・観光産業は他のセグメントに比して乗数効果が少ない。他の産業によるクラスター形成を働きかける施策を重視すべきである。新幹線開業による効果、すなわち観光という図式は短絡的ではないか。</p>	<p>・本県の平成19年の観光消費額の総額は約2,395億円と推計され、観光産業は機械、食品、繊維と肩を並べる基幹産業であると認識しております。また、観光産業は宿泊、輸送、飲食、土産品など関連する業種も多く、これらは地域に密着した業種でもあることから、その波及効果は大きいと考えております。</p> <p>新幹線開業は、地場産業等にとってもビジネスチャンスにつながるものと捉えており、本プランでは、基本戦略に「産業・地域づくり」を掲げ、地場産業の振興を図ることとしております。</p>
104	<p>・企業誘致に重点を置いた産業クラスター形成・強化施策は本質をはずしている。新幹線が通っている地域が多数存在している現状においては、石川県・北陸が提供し得る優位性を検討した上で、劣位の部分の強化も含め施策を構築すべきである。</p>	<p>・本県産業の強みとして、モノづくり基盤の充実が挙げられます。企業誘致については、こうしたモノづくり基盤の強化・充実を図るという視点から推進していくこととしております。このほか、石川・富山地域の特性(医薬学系・理工系の大学、大学院の集積、医薬品、機械、電子電気、情報など多彩なものづくり産業の集積)を活かして、世界的なライフサイエンス系のクラスター形成を目指した取組みを進めることとしております。</p>
105 ～ 109	<p>・産業集積に厚みを持たせるとともに、地場産業の育成を図るため、次を提案する。</p> <p>大浜埋立て地をさらに拡張整備し、そこへ海外への輸出を戦略とした自動車関連企業等の誘致を図る。</p> <p>金沢テクノパーク等に全天候型の工場を建て、世界に向け安価で清潔な生野菜や花類などに関し工場生産方式を取り入れた農業生産工場を誘致する。</p> <p>金沢はアジア大陸に近く日本海の中央に位置しているという利点を生かし、工業製品や農業生産物の輸出を考える。</p>	<p>について</p> <p>大浜周辺地区などの臨海部における港湾活用型企業の集積を着実に進めるため、現在、企業用地の創出を行っており、広く国内外から企業の誘致を進めていきたいと考えております。</p> <p>について</p> <p>屋内で農作物を生産する「植物工場」については、国において農商工連携研究会植物工場ワーキンググループを設置し、様々な検討を行っていることを承知しております。県としても情報収集等に努め、その動向を注視してい</p>

	<p>ものづくり産業の育成として、金沢箔と加賀友禅を活用した金沢ブランド新製品づくりを目指して大学や産業機関との連携を図る。加賀、能登、金沢の農産物や海産物は独自性、魅力がある。農業生産物として国内消費と捉えるのではなく世界へ打って出る企業戦略を推進する。</p>	<p>きたいと考えております。</p> <p>について 県内生産品の輸出時における金沢港の利用率を高めたいと考えております。</p> <p>について 地域の産学・産業間の連携強化に引き続き取り組み、産業基盤の強化を図ることとしております。</p> <p>について 生産量も限られていることなどから、まずは県内及び国内における県産食材のブランド化と販路拡大に取り組むこととしております。</p>
--	--	--

[ 重点プロジェクト ]

NO	意見内容	左記に対する考え方
110	<p>・県内には、地域づくりにがんばっている方がいる。県が新たなに何かさせようというのではなく、こうした方々の取組みを生かすことが大事である。(例えば、情報を集め外に発信していく、あるいは長続きするよう支援していく、他の団体と連携させるなど)</p>	<p>・新幹線の開業効果を県内全域に波及させるには、地域の方々の取組みが特に重要になってくると考えております。北陸新幹線金沢開業を見据え、業界、地域で様々な取組みが行われておりますが、県としては、こうした取組みがさらに県内各地に広がっていくよう、幅広い分野の方々に参加・協力いただく官民連携プロジェクトを推進していきたいと考えております。</p>
111	<p>・環境美化で大切なことは、普段の生活のマナーである。県内各地での清掃の継続や参加呼びかけ、啓蒙活動の継続、団体間の協働の3つを柱として実施していくことが大事である。</p>	<p>・環境美化の取組みをさらに広げていきたいと考えており、実施にあたっては、ご意見に留意し、進めてまいりたい。</p>